

うまたん
馬探
2022

地域の歴史を探ってみたら、右も左も馬だらけ！



地域の馬の歴史・文化探究コンテスト

受賞作品集

2023.1

発行 十和田流鏑馬観光連盟
協力 十和田乗馬倶楽部、Future Generations

〒034-0001 青森県十和田市大字三本木字佐井幅115-2
TEL:0176-26-2945 FAX:0176-26-2946
E-mail:info@towada-joba.com
ホームページ:towada-yabusame.com

はじめに

当会では、次世代を担う若者による地域に関わる探究活動の成果を募集し、優れた取り組みを表彰することで、自分の住む地域を発見・再確認し、郷土に対する愛着や誇りを育む機会と、これらの取り組みを広く発信することで、地域住民にとっても、地域の魅力を再認識する機会となることを目的に、学生を対象とした探究コンテストを初めて開催いたしました。

2022年末、受賞作品が決定しその多様な取り組みを広く発信したく、本作品集を制作いたしました。また、冊子だけでは紹介しきれない部分はホームページでも公開しております。

本作品集が教育や馬事振興などに取り組む皆さんにとって、参考になれば幸いです。

目次

コンテスト概要3

審査員紹介4

受賞作品紹介

最優秀賞

 十西発!十和田の魅力を再発見!!駒っこツアー!!!~十和田の「駒」の文化と歴史を楽しもう!~

 十西観光科!駒っこツアー一班5

優秀賞

 北総地域に生きる競走馬のミライ 成田ジュニア・ストリングオーケストラ「Teamウマタン2022」7

優秀賞

 馬事文化の再編 野馬追いの里に描かれる新しい人と馬の暮らし 草野 聡一郎9

十和田流鎗馬観光連盟賞

 現代版!!馬と暮らそう 佐々木 夢由羽11

株式会社習学ゼミ賞

 どさんこの歴史と特徴&とかちU.M.A.の活動 とかちU.M.A.13

株式会社福萬組賞

 「繋ぐ未来」 うみかぜライド15

株式会社アイスタット賞

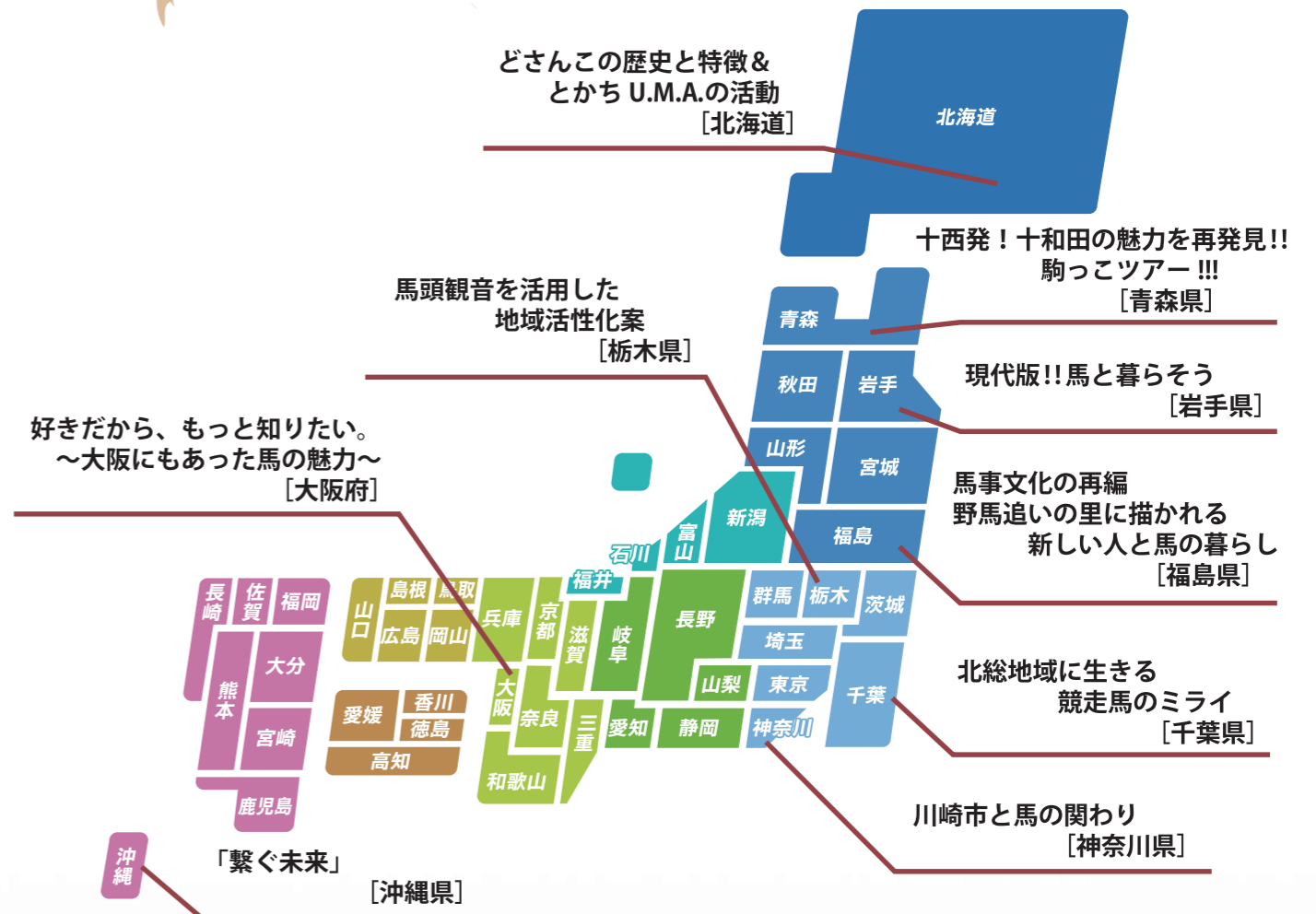
 馬頭観音を活用した地域活性化案 栃木県立矢板東高等学校リベラルアーツ同好会地域探究班17

流鎗馬文化祭・プレゼンテーション&表彰式19

Future Generations紹介21

十和田流鎗馬観光連盟紹介22

馬探 参加マップ





地域の馬の歴史・文化探究コンテスト

馬探(うまたん)は、中・高・大学生による「自分たちの地域と「馬」との関りが感じられるもの」をテーマにした、探究コンテストです

募集概要

参加対象

中学・高校・大学生または相応する年齢の方(個人・グループどちらでも可)

応募資格

結果発表(12/18(日)@流鏝馬文化祭)に、リアルもしくはオンラインで参加できること

エントリー

Webフォームよりデータ応募(ポスター、ムービー、論文、新聞形式など、テーマに対する発表内容がわかるものであれば、作品の表現方法は問わず。)

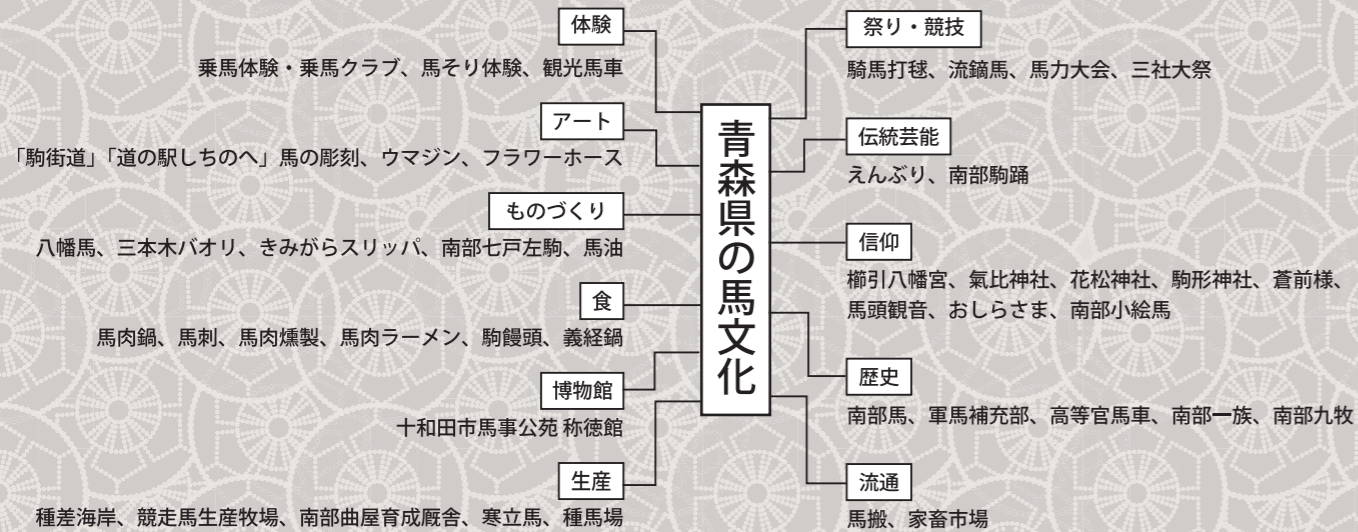
賞

- 最優秀賞 1作品 5万円+副賞品
- 優秀賞 2作品 2万円+副賞品
- 特別賞 審査員ごとの視点で選出(副賞品)

審査

- ①「調査力」:テーマについて情報を収集・整理・分析できているか。
 - ②「構成力」:ストーリーはわかりやすく組み立てられているか。
 - ③「表現力」:演出や素材の使い方は魅力的か。
 - ④「独創性」:独自の視点や考え方、工夫が見られるか。
 - ⑤「探究力」:自らの力で答えを求め、より深く追究しているか。
- 上記内容を参加者の、年齢(学年)・チーム人数を考慮のうえ、エントリーシートと作品から評価します。

私たちの暮らしぶりを眺めてみると、いたるところで馬と出会えます



参考:青森県の暮らしぶりを訪ねる旅(青森県観光国際戦略局)より一部抜粋

探究活動



興味のあることや身近な「馬」との関りを見つけ、ネットや文献を調べたり地域の方からお話を聞いたりなどのフィールドワークを行います。

作品制作



探究活動と並行して、文章・写真・デザインなどの役割分担を行い、作品制作に取り組みます。

展示・プレゼン



「流鏝馬文化祭」会場にて作品の展示とともに活動紹介・作品説明プレゼンを行います。

審査員紹介



上村 鮎子
(かみむら あゆこ)

十和田流鏝馬観光連盟
会長

現在の「競技流鏝馬」人気に大きく貢献したスポーツ流鏝馬普及の第一人者として、現在も各地の流鏝馬大会に精力的に出場。様々なメディアにカリスマ流鏝馬主婦としても取り上げられ、2003年には、南部地方で伝承されている南部流鏝馬の師範に弟子入りをする。各地の大会において指導した選手が次々と入賞を果たし、南部流鏝馬師範より指導者としてのお墨付きも頂いた日本初の女流流鏝馬指導員である。



新山 恭孝
(にいやま やすたか)

株式会社 習学ゼミ
代表取締役

青森を主に北関東・東北に13教室を展開する総合学習塾「習学ゼミ」代表『学習支援』『進路支援』に加え、地域と連携した『キャリア教育』の3つの柱で将来社会で活躍できる人材を育てることを理念に、地域企業とのコラボによる実践力習得を目的とした次世代リーダー育成プログラム「Future Generations」を2019年より始動。現在は『青森県教育委員会主管「地域の思いをつなぐ」若者育成事業」委託事業としても発展している。



ガーディナー 司子
(がーでいなー つかこ)

株式会社 福萬組
取締役副社長

青森県立三本木高等学校～アメリカ合衆国マサチューセッツ州セーラム州立大学スポーツ経営学部卒業。2009年株式会社福萬組入社、2015年取締役副社長就任。2022年1月から国際結婚を機に拠点をオーストラリア・キャンベラに移す。2022年7月から東北建設業青年会会長に着任、建設業界の3K「きつい・汚い・危険」のイメージを「感謝・綺麗・貢献」の新しい3Kへと変革すべく行動する、地域を牽引する若手女性リーダー。趣味で2017年からスポーツ流鏝馬にも挑戦。



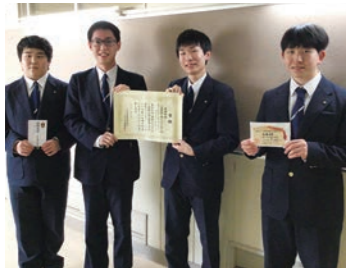
志賀 保夫
(しが やすお)

統計分析研究所
株式会社アイスタット
代表取締役社長

ビジネス・ブレイクスルー大学大学院 教授
株式会社ケアネット 医薬事業部
シニアメディカルマーケティングアドバイザー

北里大学獣医学部動物資源科学科動物行動学研究室に研究生として所属し、現在、アニマルウェルフェア、ホースセラピーをテーマに研究・論文執筆、論文発表も行っている。ビジネス・ブレイクスルー大学大学院では教授として担当科目は「統計解析」また、MBA取得を目指す大学院生の卒業研究の指導・審査なども担当している。





最優秀賞

十西発!十和田の魅力を再発見!!駒っこツアー!!!
~十和田の「駒」の文化と歴史を楽しもう!~[青森県]

十西観光科!駒っこツアー一班

■学校名 青森県立十和田西高等学校 観光科 ■代表者名 小笠原蓮(高校3年) ■他メンバー 山端周平(高3)、佐々木孝太(高3)、村館翔(高3) ■担当教員(指導者) 手代森美都

作品概要

観光科では令和2年から3年の2年間、十和田市人口減少対策に取り組みました。インバウンド対策をして観光客増を目指す研究活動を行ってきました。PRポイントは、三沢市のスカイプラザで外国人観光客へのアンケート調査を実施してリアルな声をテーマとした事、駒っこランドや吉兆、官庁街通り等で馬に関する文化や歴史について実地調査を元に学んだ事、文化や歴史の学びを主軸としたオリジナル駒っこツアーの企画運営、十和田乗馬倶楽部でのリハーサルやモニターツアー、最終的には十和田の広報で参加者を募集して、駒っこツアーを実施できた事です。観光科の先輩方と共同研究する事で、リハーサルやモニターツアーで見た課題を改善し、私たちが一般観光客を対象に駒っこツアーを実施できました。更には、道の駅とわだと共同開発したオリジナルポテトチップスのパッケージに馬を活用し、広く十和田市の魅力を発信し、充実した研究活動ができました。

探究の動機
や目的

県内唯一の観光科として、地域活性化や人口減少対策に取り組み、地域貢献を目指しています。十和田市では年々外国人観光客が増加している事から、インバウンド対策に取り組みました。十和田市の現状について調査研究し、ベジタリアン対応の店舗がない・十和田市の文化観光を知りたい・おいしいものを食べたいというアンケート結果から、「駒っこツアー」や「オリジナル商品開発」を通して十和田の魅力を広く発信して観光客増を目的に活動してきました。

探究の方法
や内容

- 1) 十和田の現状について知る
 - ・十和田市の人口減少対策についての講話(企画財政部制作財政課)
 - ・観光客の状況について調査・分析
 - ・外国人観光客アンケート調査(三沢市スカイプラザ)
 - ・十和田市の馬の文化と歴史についての講話(十和田乗馬倶楽部)

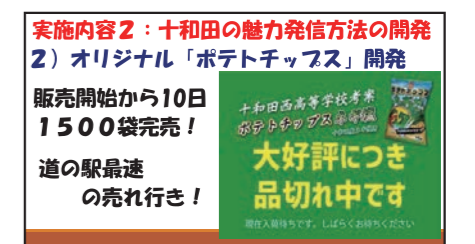
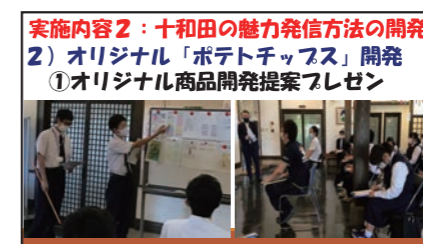
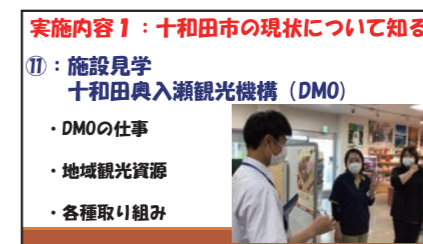
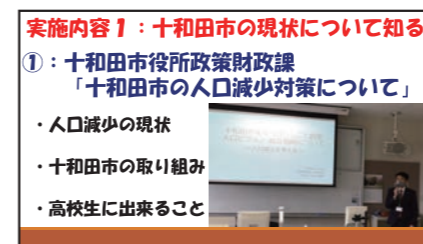
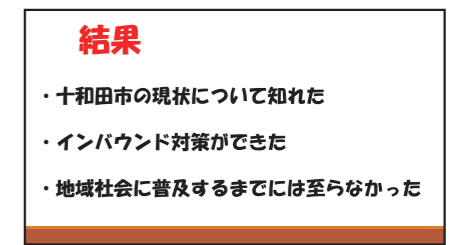
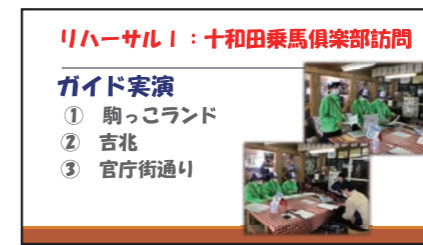
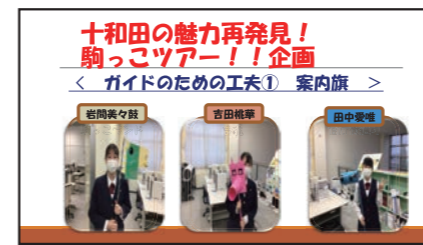


- ・施設見学Ⅰ
 - ① 十和田湖民俗資料館&旧笠石家住宅
 - ② 道の駅とわだ「とわだぴあ」
 - ③ コミュニティカフェ「ハピたのかふえ」
 - ④ 複合型商業施設「365」

- ・施設見学Ⅱ
 - ① 十和田市馬事公苑「駒っこランド」
 - ② 道の駅奥入瀬「奥入瀬ロマンパーク」
 - ③ 農園カフェ「日々木」
 - ④ 十和田奥入瀬観光機構(DMO)
 - ⑤ 市内巡検(官庁街通り・現代美術館・商店街など)

探究の方法
や内容

- 2) 十和田の魅力発信方法の開発
 - ・オリジナル「駒っこツアー」企画・運営
 - ・オリジナル「ポテトチップス」企画・開発
- 3) 地域社会に普及する
 - ・青森県の「SDGs」応募
 - ・オリジナル「駒っこツアー」実施
 - ・オリジナル「ポテトチップス」普及販売活動
 - ・人口減少対策成果発表会
 - ・十和田流騎馬文化祭活動内容展示発表
 - ・各種マスコミによる発信(新聞・テレビ・広報など)



審査員のコメント

●民間企業・行政を巻き込んで商品化までされている。企業が商品開発する流れと一緒にある。 ●実際にツアーを実施したことも評価できるし、ポテトチップも大変良いアイデアである。 ●ここまでしっかりとリサーチしたのであれば、まず、最初の海外の人のヒアリング・アンケート結果を定量的に示し、リサーチし、インバウンドを増やすための企画を複数提案しているので、その提案を再度、海外の方々にリサーチ・アンケートしてもらった結果の評価から、結論を導きだす論文レポートとしていけば、より素晴らしいレポートに仕上がったと考えている。 ●様々な視点からよく調査されていて、十和田市の現状を知り、魅力再発見になり素晴らしい。

作品の詳細は受賞一覧ホームページよりご覧いただけます。





優秀賞

北総地域に生きる競走馬のミライ [千葉県]

成田ジュニア・ストリングオーケストラ
「Teamウマタン2022」

■学校名 国府台女子学院中部、成田山教育財団成田高等学校、成田市立公津の杜小学校、成田市立成田小学校、KTC学園屋久島おおぞら高等学校、佐倉市立井野中学校
■代表者名 古郡 怜奈 (中学1年) ■他メンバー 横内敬文 (高1)、古郡健多 (小4)、横井稜成 (小3)、遠藤柚乃 (高1)、横内敬子 (中1) ■担当教員 (指導者) 横内 絢子

作品概要

本作品は、千葉県成田市で活動する「成田ジュニア・ストリングオーケストラ」の弦楽器奏者による地域探究活動の成果報告である。競走馬の育成・調教が盛んな千葉県北総地域に生きる馬たちがどんな環境で育ち、どのように活躍し、そして引退後はどんな道が待っているのか。小学生から高校生までの年齢で構成された探究チームは、それぞれの特技を生かし、統計データや地図情報を分析して地理的要因や気象的要因を探ったり、地域の競走馬育成牧場を訪問してフィールドワークや取材活動を行ったり、所属する乗馬クラブにおける自らの経験や想いを共有するなど、様々な探究活動を展開し、最後に自分たちなりの「北総地域に生きる競走馬のミライ」を提案した。

乗馬クラブで引退後の競走馬とともに活動しているからこそ見えてきた現実と将来への願い、馬の尻尾を用いた弦楽器の弓で演奏しているからこそ気づいた着眼点など、青少年音楽団体ならではの斬新な地域探究である。

探究の動機
や目的

成田ジュニア・ストリングオーケストラは、3年前のコロナ禍により演奏活動に大きな制約を受けたことをきっかけに「音楽が地域のためにできること」を追求する探究活動のチームを団内に立ち上げ、音楽、防災、地域振興、アイヌ民族文化など様々なテーマで地域探究を展開してきた。

この夏、高校生チームメンバーが東北地方を旅する中で「馬探2022」募集ポスターに出会った。普段から演奏しているヴァイオリンの弓に馬の尻尾が使われていること、クラシック音楽には馬をテーマとした曲(草競馬やウィリアムテル序曲など)があること、演奏活動をしている千葉県北総地域は競走馬の生産が盛んであることから、もっと地域の馬について深く探究してみようと呼びかけ「teamウマタン2022」を団内に結成した。

中学生チームリーダー(古郡怜奈)は小学2年生から5年間、地域の乗馬クラブで活動しており、競走馬を引退した自馬と触れ合う中で「競走馬の行く末」について関心を抱くようになった。その経験から生み出された地域探究テーマが本作品「北総地域に生きる競走馬のミライ」であり、多様な経験を持つ異年齢のメンバーが、それぞれの特技を生かして地域の競走馬の行く末を提案することを目的に探究活動を展開したものである。



探究の方法
や内容

以下の3つの課題を設定して、それぞれのテーマについて担当を決めて地域探究を深めることとした。気象データ(平年値)などExcelを用いた統計分析や研究の全体取りまとめスライドは高校生メンバー(横内敬文)が、フィールドワークや取材活動など現地での調査研究や巡検は小中学生メンバーが(古郡怜奈・健多、横井稜成、横内敬子)、映像作品の制作やプレゼンテーションの収録は高校生メンバー(遠藤柚乃)がメインで担当した。

- 【ミッション① 千葉県北総地域で競走馬の育成が盛んな理由を探れ!】
なぜ北海道で生産された競走馬を千葉県北総地域で育成・調教するのか、その地理的要因と気象的要因を統計値と地図データを用いて比較分析した。
- 【ミッション② 地域の競走馬の育成牧場を訪問・取材しよう】
千葉県芝山町にある競走馬の育成牧場を訪問し、ここで働くホースマンへの取材や現地フィールドワークを行い、北総地域においてどのように競走馬が育てられ、どのように活躍し、現役引退後はどのような進路が待っているかを明らかにした。
- 【ミッション③ 北総地域に生きる競走馬のミライを提案】
メンバーが訪問した長野県野辺山にある観光牧場を紹介し、地域探究を通じて得た知見を基に、北総地域でもこのような競走馬のミライを実現したいという私たちからの想いを提案した。



審査員のコメント

●メンバーが小中高生で良い。 ●着眼点に独創性が感じられる。 ●今回の馬探論文だけではなく、「音楽を地域にできること」を追求する探究チームとしての活動を継続的に実施している。 ●本研究も自分たちが普段つかっている弓毛が馬の尻尾であることからの着眼点に独創性がみられている。 ●馬を知らないメンバーでも、今までの研究調査手法の経験(フィールドワーク)から非常によく調査し、分析できている。 ●スライドと音声での解説も非常にわかりやすい。

作品の詳細は受賞一覧ホームページよりご覧いただけます。





優秀賞

馬事文化の再編 野馬追いの里に描かれる新しい人と馬の暮らし [福島県]

草野 聡一郎

■学校名 宇都宮大学 ■代表者名 草野聡一郎(大学4年) ■他メンバー なし ■担当教員(指導者) なし

作品概要

福島県北部の海岸に面した地域に南相馬というまちがあります。ここでは、1000年以上続く「相馬野馬追」という祭りが行われています。この祭りは、地域にとっての誇りであり、人々と馬が共存していた地域でした。しかし、東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故の影響を受け、祭りの規模が縮小され、馬を手放す人も多く、馬と地域のつながりが希薄になりつつあります。そこで、南相馬独自の馬事文化を再編し、人と馬が共存する場を「相馬野馬追」の主会場を中心とするエリアに提案します。「相馬野馬追」の中心地に馬と暮らす拠点や引退馬の保護施設を計画し、日常的に馬と触れ合うきっかけを作ります。日常的に馬と触れ合うことで、馬と地域の新たなネットワークをつくりだします。この建物を通して、新たな馬の価値を見出すとともに、人々と馬が共存できる空間を提案します。

探究の動機 や目的

今回の作品は、大学の卒業設計で取り組みました。テーマを決める際に、福島県で生まれ育ち、東日本大震災を直に経験したこともあり、被災地で何か復興に繋がる提案をできないかと考えました。南相馬市は福島第一原子力発電所の事故の影響を受け、一時は避難区域として指定されていました。この街には多くの地域資源があり、その中でも「人と馬の文化」がとても魅力的に感じました。「相馬野馬追祭り」を通して時間をかけて形成されてきたものであり、地域の人々の生業と暮らしに馬が密接に関わっていました。しかし、東日本大震災の影響や高齢化、感染症の影響によって地域の馬の数が減少しているということを知りました。また、かつては農耕や移動手段としての役割が失われた馬という貴重な地域資源に、新たな価値を見出すとともに、地域の復興や活性化に繋がってほしいという思いからこのテーマを選びました。

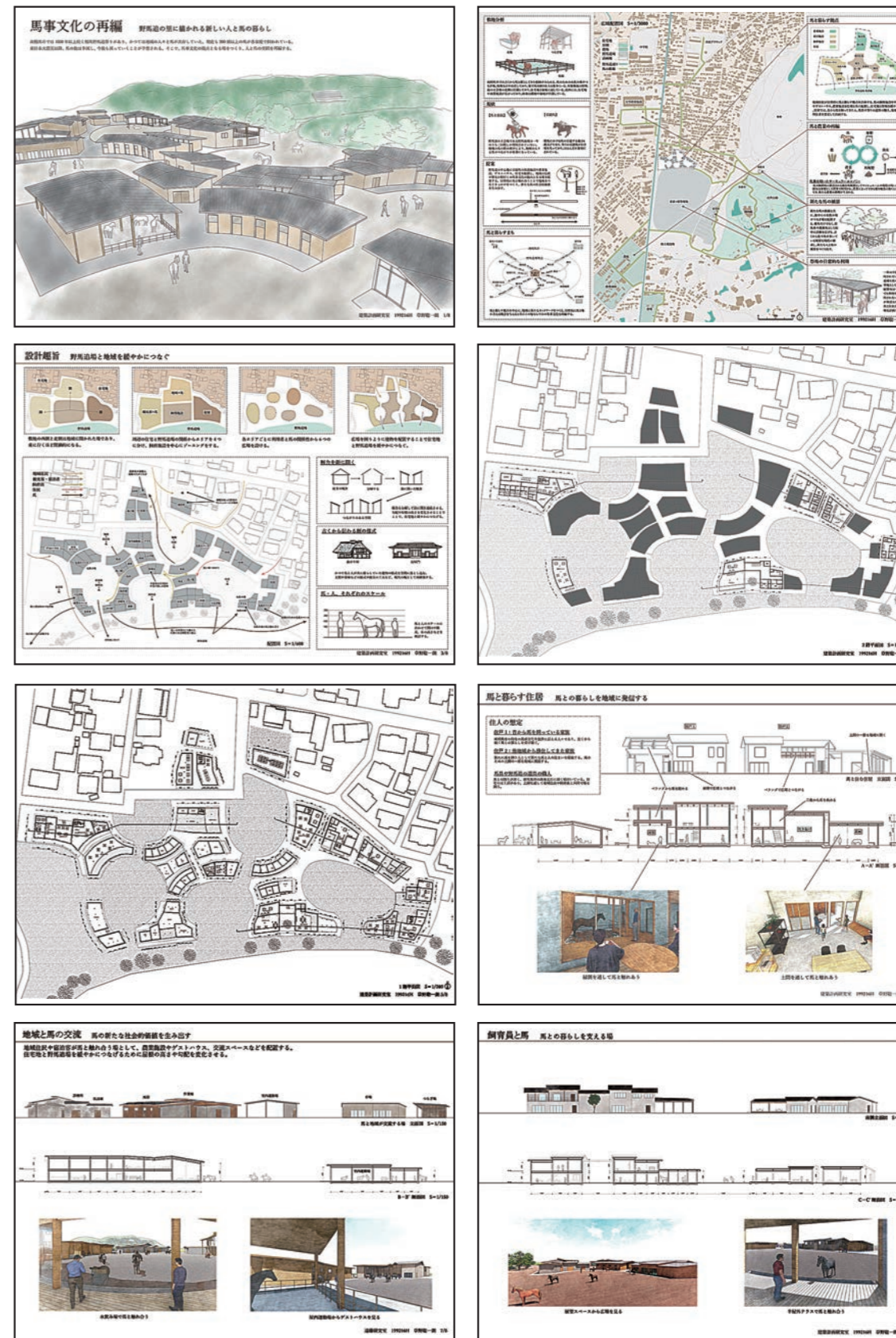
探究の方法 や内容

現地調査を行い、実際に馬と人の関わり方をリサーチするとともに、南相馬市が公開している相馬野馬追祭りの歴史や活動内容を調べ、提案に活かしました。また、かつて馬と人が共存していた建築の形態を文献や実際の建物を調査することで探求を行いました。

感想と今後の課題

今回、馬と人の文化について探求し新たな人と馬の関わり方を提案することで、地域資源の大切さや後世に残していくべき文化がどの地域にも存在していることが分かりました。南相馬市の野馬追を通した馬と人の生業と暮らしの文化は、時間をかけて形成されたものであり、次の世代に継承していくと共に現代の暮らしに合うような価値や活用方法を見出すことが、このまちにしかない魅力を再発見し地域活性化につながると感じました。

反省点として、新型コロナウイルスの影響もあり、現地に行ける機会があまりなく現地のお話を伺うことができなかったため、今後は地域の人と馬の関わり方を深く探求していき、馬と人暮らしの中の課題や新たな価値を見つけ出していきたいです。



審査員のコメント

- 新しいビジネスを誕生させる予感すらする夢あるデザインで、まさに地域デザイン。●地域愛や思いを感じる。
- 問題解決しようとした着眼点、どう再編していくのか具体策が明確で、論文の論理構成も素晴らしい。●それぞれの動線を考えエリア分けされた配置図は素晴らしく、イラストもありわかりやすい。●実際に再編したと仮定した場合の、馬を飼う人・世帯を対象として、定性的・定量的調査結果まで網羅されていればより素晴らしい論文になったと考える。

作品の詳細は受賞一覧ホームページよりご覧いただけます。





株式会社福萬組賞

「繋ぐ未来」 [沖縄県]

うみかぜライド

■学校名 沖縄尚学高等学校 ■代表者名 島谷春佳(高校2年) ■他メンバー なし ■担当教員(指導者) なし

作品概要

日本最西端にある与那国島には、沖縄の在来馬であるヨナグニ馬が農耕馬として人と共に暮らしていましたが、機械化が進んだ現代社会、ヨバグニ馬は必要とされなくなり、2011年には約60頭にまで減少しました。その後も減少傾向にあり、一時は絶滅も危ぶまれたヨナグニ馬でしたが、保護団体が立ち上げられ現在は110頭まで個体数は回復しています。

ヨナグニ馬保護団体であるうみかぜホースファームでは、ヨナグニ馬の保護活動に務めると共に、彼らの温厚な性格や小柄で力持ちの特徴を生かした新たな活用法を見つけ、地域の一員として人と馬の共存をはかっています。

現在では幼稚園や特別支援学校、老人ホーム、企業や地域のイベントなど様々な場所に出張し、ホースセラピーとして活躍しているヨナグニ馬ですが、彼らの存在や過去、現在を知り、なぜ保護活動が行われているのかはあまり知られていません。ただ個体数を増やすだけでなく、地域の人々に必要とされる仕事を与えることで現代社会に彼らの居場所をつくる、それが本当の意味での保護活動だとして活動しています。

今回提出した作品には、それらの活動を広めると共に、沖縄を舞台にヨナグニ馬と人の「繋がり」をテーマにしました。

探究の動機
や目的

私は小学校1年生の時からうみかぜホースファームの馬クラブに通い始め、その頃にヨナグニ馬のことを知りました。当時はヨナグニ馬の認知度も低く、地元の人でも自分たちの島の在来馬、それも昔は共に暮らしてきた地域の一員であったのにも関わらず、「ヨナグニ馬ナニソレ」状態でした。そこから何年もかけて地域の行事に参加し、触れ合い体験を何度も開き、そうしてヨナグニ馬という存在を地域に浸透していった過程を間近で見ました。

現在はだいぶ認知度も上がり、地域に馴染んできたヨナグニ馬ですが、それでも地域差はあり、彼らのことを知らない人も少なくありません。

馬の中ではとても小柄な体格で胴長短足、性格も温厚で人懐っこいとキャラクターチックなヨナグニ馬は、セラピーホースとしてとても向いています。それだけでなく、小学校で馬の授業を行う時も適任です。彼らの魅力とそれを活かせる仕事がちゃんとあり、1人でも多くの地域の人に知ってもらおう。そして、彼らが地域に馴染み必要とされることが、今回の最終目標です。

探究の方法
や内容

長年そばでヨナグニ馬を見て培った知識やボランティアスタッフとして活動してきた経験を生かし、ヨナグニ馬を保護することの意義、本当の意味での保護活動とはどういうことなのか、私たちは彼らをどうしたいのか、保護団体や地域の人たちに話を聞きながら、それらを突き詰めて考え、分かりやすく最低限に言葉をまとめました。



審査員のコメント

●在来馬の保護活動に関してブラックなニュースが届く中、このような活動をしている高校生がいるというのは地域が、馬の保護活動に関して取り組み方が変化してきている証拠かと思います。 ●動画という表現に地域の特性(海と馬)も生かされている。 ●著者自身「気付き」が得られたことにとっても大きな価値がある。 ●動画と写真を組み合わせ、わかりやすく見やすくまとめられている。 ●作品力が高い。

作品の詳細は受賞一覧ホームページよりご覧いただけます。





■学校名 栃木県立矢板東高等学校 代表者名 清水映太(高校2年) ■他メンバー 笹沼心美(高2)、本間咲(高2)、佐藤青弦(高2)、渡辺伸生(高2)、高野双葉(高2) ■担当教員(指導者) 坂本 慶

株式会社アイスタット賞

馬頭観音を活用した 地域活性化案 [栃木県]

栃木県立矢板東高等学校 リパラルアート同好会地域探究班

作品概要

地域活性化案として、各地域に点在する特徴ある馬頭観音にスポットをあて、地域を巡るツアー企画を考案した。この企画を通して、参加者は地域の歴史を知るきっかけを得ることができると同時に、それぞれの地域の共通点や異なる点を感じることができ、地域の持つ歴史の面白さを実感できる。私たちの住む栃木県北部は、かつては広い農村地帯であり、昔から馬と結びつきが強い生活をしてきた。そのため、地域には馬頭観音が多く残っている。この地域に残る馬頭観音を観光資源として活用するための手立てとして①全国馬頭観音のイラスト化、キャラクター化②全国馬頭観音イケメングランプリ③馬頭観音ラリーの3つの案を考案した。PRポイントとして、情報のQRコード化、デジタルイラスト化など、高校生の私たちでもできる情報発信方法を取り入れている点である。また3つの企画案は、全国どこの自治体でも同様の企画運営ができることも魅力である。

探究の動機や目的

「馬探 2022」の作品募集があると知ったことで、今回本格的に探究を行った。本校の同好会は2019年に活動を開始し、最初の探究テーマが地域の馬頭観音に関する民俗学的調査であった。今回は2019年の調査記録に加え、新たに4市町村のフィールドワークを実施し作品を仕上げた。地域に点在する石碑石仏の中で、栃木県北部は馬頭観音が圧倒的に多く、昔の生活の中で馬との関わりが強かった地域といえる。しかし、そういった地域の歴史に興味を持つ友人はあまりおらず、何か対策をしなければいつか忘れられていくと危惧した。そのため、高校生である私たちが積極的に馬頭観音の魅力を発信し、地域経済の活性化につながるような企画案を提案したいと思い、今回の応募に至った。

探究の方法や内容

探究の方法として、メンバーで協議し、「地域の中で馬との関わり」をテーマに様々な案を出すことから始めた。その結果、同好会の行っている研究の継続という観点から、馬頭観音について調査範囲を広めてフィールドワークを行った。また市が編纂している市史から、昔の生活の中で馬との関わりがどのような点から見ることができかを調べた。地域を調査すると、一言で馬頭観音と言っても、様々な馬頭観音が点在していることがわかった。このそれぞれ趣が異なる点に着目し、地域活性化案として多くの人々が地域を巡ることを楽しめるツアーになるような企画を考えた。また民俗学的な要素を地域活性化案の中に盛り込むことで、今まであまり知られてこなかった地域の歴史を文化財とともに紹介できるような内容とした。

感想と今後の課題

過去の研究を発展させて、矢板市の馬頭観音と別の地域のものを比較することができたが、フィールドワークを行った地域が広いため、地図を活用した分析まで至っていないことが課題である。また、専門家の意見を踏まえた考察に至っていないことも課題である。今後の課題として、馬頭観音に関する各地に残る民話や伝承などを伝え広めていける企画を検討していきたい。地域文化は継承していく必要があるため、具体的な手立てとして地域の馬頭観音に関する民話や伝承などを紙芝居動画のようにデジタル化し、高校生が地域の人と協力して伝え広げていけるようなアクションを起こしていくことを検討したい。そのため、市の生涯学習課と連携して何ができるかを相談していく予定である。

Slide 1: Introduction and overview of the project. It includes a title '第1章 序論' and a sub-section '1.1 探究の動機' explaining the motivation for the project based on their previous research and the abundance of horse-headed Kannon statues in the region.

Slide 2: Detailed proposal for the 'Horse-Headed Kannon Lorry' (馬頭観音ラリー). It includes a title '第2章 馬頭観音を活用した地域活性化案' and a sub-section '2.1 企画案について' which lists three main ideas: 1) National Horse-Headed Kannon Illustration Contest, 2) National Horse-Headed Kannon 'Ikemen' Grand Prix, and 3) Horse-Headed Kannon Lorry.

Slide 3: Further details on the 'Horse-Headed Kannon Lorry' and other related activities. It includes a title '第3章 馬頭観音を活用した地域活性化案' and a sub-section '3.1 馬頭観音を活用した地域活性化案' which describes the implementation of the lorry tour and other initiatives like QR code integration and digital illustrations.

Slide 4: Summary and conclusion of the project. It includes a title '第4章 総論' and a sub-section '4.1 総論' which summarizes the project's goals, the methods used, and the authors' reflections on the process and future challenges.

審査員のコメント
●馬頭観音を観光資源という着眼点が素晴らしい。 ●馬頭観音イケメンラングやQRコードを活用しての伝承、イラスト化等素晴らしい発想が盛りだくさん。 ●論文としての論理構成がとてもよくできている。 ●実現可能性も高いと理解できる論文である。 ●非常に完成度が高い。 ●チーム力が生かされた印象。 ●せっかく良いアイデアなので、行政や企業を巻き込んだ考えも加えてみたら、もっと良い観光資源としての商品になりそう。 ●動画と写真を組み合わせ、わかりやすく見やすくまとめられている。 ●内容が素晴らしい。 ●作品力が高い。

作品の詳細は受賞一覧ホームページよりご覧いただけます。



流鏝馬文化祭

令和4年12月17日(土)・18日(日)「流鏝馬文化祭 in とわだ2022」が十和田商工会議所にて開催されました。当日は各団体の研究成果発表パネルや世界流鏝馬選手権での記念式典の映像放映、市内幼稚園の子どもたちの馬の絵展示、一般募集の作品展示が行われました。また、大学生のサークル「にんじんサークル」によるダンスやファッションショー、「とわだをピンクにそめる会」によるがんについての講演会や「花すず会」による踊りの発表がありました。

プレゼンテーション&表彰式

令和4年12月18日(日)馬探2022の受賞団体のプレゼンテーションと表彰式が行われました。リモートでの参加もあり沖縄から北海道、さらにオーストラリアを繋ぐイベントとなりました。



レザークラフト製作体験



園児による馬の絵画展示



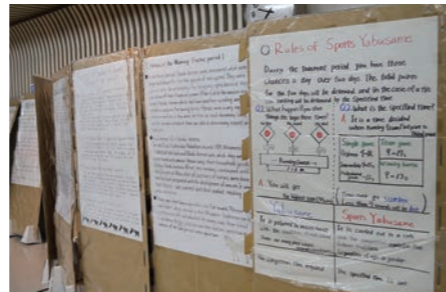
乳がんについてパネル展



一般募集による作品展示



各学校の研究成果報告



Future Generations英語での流鏝馬解説



にんじんサークルによるダンス発表



にんじんサークルによる立射演武披露



立射演武ワークショップ



会場の皆さんと三本木小唄流し踊り



花すず会演舞披露



乳がん講演会



桜流鏝馬フォトコンテスト



桜流鏝馬フォトコンテスト表彰式



桜流鏝馬フォトコンテスト受賞者記念撮影



表彰式のZOOM記録映像は
十和田流鏝馬観光連盟公式
Youtubeチャンネルにて
公開しています

Future Generations

フューチャー・ジェネレーションズ

十和田乗馬倶楽部 × 習学ゼミ
次世代リーダー育成プログラム

次世代を担うリーダーになろう!

塾内にとどまらず、地域社会を学びの場として様々な人と関わりながら、イベント活動、ワークショップ、プレゼンテーション等の体験学習を通して、社会で活躍しリードしていく力を備えた人材の育成を目指すプログラムです。

急速に変化する現代社会において、「自ら課題を発見し、考え、解決していく力」が必要とされています。この流れは大学入試にも及び、これまでの「知識・技能」に加え、「思考力・主体性・協働性」等を総合的に問う入試へと改革が行われました。

現在は、十和田乗馬倶楽部様ご協力の元、「スポーツ流鏝馬で十和田市を日本一輝ける街へ」をテーマに、様々な活動を通して、実践的な発想力・論理的思考力・コミュニケーション力・実行力の育成を目指しています。

総合型・学校推薦型選抜にも役立ちます

これらの活動は、大学入試の受験方式において全体の約50%を占める『総合型選抜・学校推薦型選抜』にも大いに役立ちます。FGの活動を始めて2年度が経過しましたが、本活動を総合型選抜や学校推薦型選抜に活用した何名もの生徒が見事志望校に合格しています。

地域社会や様々な人と触れ合いながら、学習や経験を積み重ね、社会で活躍する力を習得しましょう。本プログラムにご興味ある方は、教室までご相談ください。

写真提供：十和田乗馬倶楽部 第2回桜流鏝馬フォトコンテスト 最優秀賞

facebook Instagram Twitter WEB SITE

【活動内容】

- **イベント**
 - ・スポーツ流鏝馬大会でのイベントの企画・実行 (4月・8月・10月)
 - ・スポーツ流鏝馬の講義・乗馬体験 (7月)
 - ・プレゼンテーション (7月・12月・2月)
 - ・スポーツ流鏝馬イベントでのボランティア (単発)
 - **探究学習**
 - ・外部講師を招いての勉強会
 - ・時事問題研究会
 - ・ワークショップ、グループディスカッション
 - ・プレゼンテーション、資料・文章作成講座
- ※活動内容・実施時期は変更になる場合があります。
※月1~2回程度、土日の17時ごろの活動となります (イベントは開催日時による)。
※部活動が忙しくなく時間に余裕のある生徒さんにはお勧めしております。
※大会ボランティアのみの参加もご相談ください (ボランティア証明書が発行されます)。
- 【対 象】 高校生
【参 加 費】 無料
【参加申込】 詳細は教室までお問い合わせください。

◎お問い合わせ
習学ゼミ
東一番町教室
☎0176-51-3005

お申し込みフォーム

十和田流鏝馬観光連盟では
スポーツ流鏝馬大会の企画運営を通して馬の文化を伝えています



日本各地で行われている流鏝馬(やぶさめ)は、その殆どが奉納神事であるため、女性が行うことは叶いません。一方で和式馬術に憧れる女性は多く、競技として流鏝馬を愛好する人が急増しています。桜流鏝馬は、女性だけが出場できる日本で唯一の大会です。桜並木の下を華麗な乙女達が次々と疾走していく美しい光景は、見る人を魅了してやみません。

開催日 / 4月下旬
会場 / 十和田市中央公園緑地

馬産地として発展してきた歴史を持つ「駒の里」十和田市。毎年10月には世界一の騎手を決める世界大会が開催され、多くの流鏝馬騎手が集まる流鏝馬の聖地でもあります。砂をかぶるほどの近距離で見る馬の迫力をぜひご覧ください。

開催日 / 10月中旬
会場 / 十和田市中央公園緑地

馬産地十和田の歴史を学び・体験し
流鏝馬を広め、次の世代へつなげたい...

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Future Generations

5 ジェンダー平等 老若男女楽しめる競技スポーツとしての流鏝馬普及により、男女問わず社会で広く活躍できる方の創出を目指します。

17 ノーマライゼーションの理念に基づき、スポーツ流鏝馬を通じた性別・国籍・年代を越えた世界平和作りに貢献します。

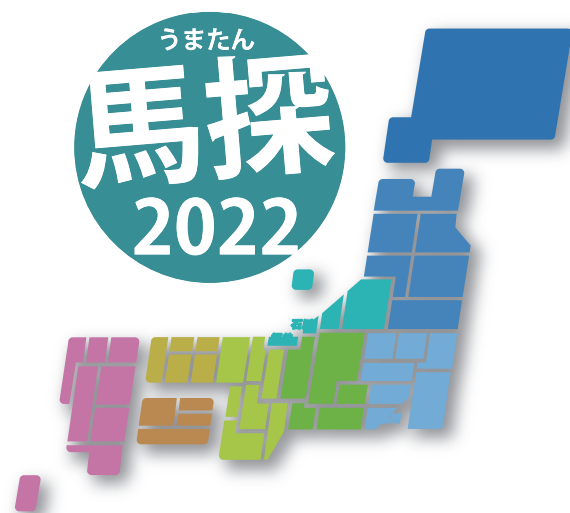
地域の馬の歴史・文化学習会

流鏝馬立射演武普及事業

4 質の高い教育をみんなに 地域の歴史・文化や日本の伝統について身近に感じるとともに、文化の背景にある思考や歴史までを深く知り現代にどう生かすかについて考える機会を提供します。

十和田流鏝馬公式総合案内
<http://towada-yabusame.com/>

十和田流鏝馬観光連盟
Youtubeチャンネル登録お願いします



私たちは、本コンテストの理念に賛同しその活動を支援しています。

協賛



協力



後援

青森県教育委員会、十和田市教育委員会、東奥日報社、東奥日報文化財団、公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会